

防ぐ 弾道ミサイル防衛

ミッドコース段階

弾道ミサイルの軌道

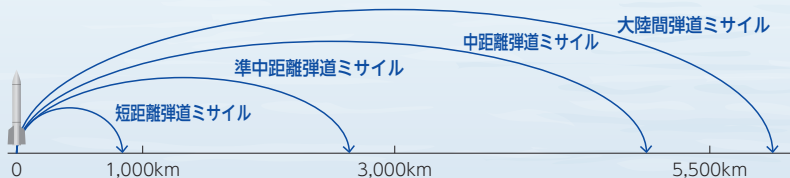
ブースト段階

1
 弾道ミサイル発射

4
 イージス艦による
 上層での迎撃

弾道ミサイルとは

弾道ミサイルは、ロケットエンジンで飛翔するミサイル。長距離の目標を攻撃することが可能。一般に下表のように射程で分類



(注) 18 (平成30) 年6月末現在、海自が保有している6隻のイージス艦のうち、弾道ミサイル防衛能力を有しているものは5隻。同年内に6隻になる予定

弾道ミサイル迎撃のイメージ

▶防衛省・自衛隊の弾道ミサイル防衛に関する取組についての最新の情報はこちら
(防衛省・自衛隊HP)



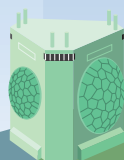
弾道ミサイルの脅威から国民の生命とわが国の領土・領海・領空を断固として守り抜くため、防衛省・自衛隊では、平素から情報収集や警戒監視を行っています。

現在、わが国に飛来する弾道ミサイルへの対処に当たっては、①イージス艦による上層での迎撃と②ペトリオットPAC-3による下層での迎撃を、自動警戒管制システム (JADGE[※]) により連携させて効果的に行う多層防衛を基本としています。

ターミナル段階

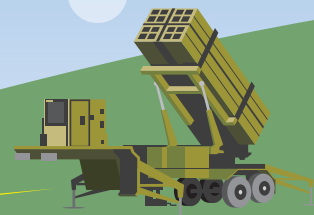
2

警戒管制レーダー
による探知・識別・追尾



5

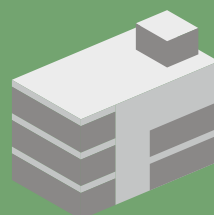
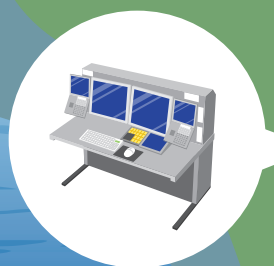
PAC-3による
下層での迎撃



3

JADGEによる連携

※ JADGEとは、全国各地のレーダーが捉えた航空機などの情報を一元的に処理し、対領空侵犯措置や防空戦闘に必要な指示を戦闘機などに提供するほか、弾道ミサイル対処においてペトリオットやレーダーなどを統制し、指揮統制及び通信機能の中核となるシステム



平素からの備え

警戒監視と対処態勢の維持

弾道ミサイルの脅威からわが国を守るため、自衛隊員は全国各地の現場で24時間365日態勢で奮闘しています。

全国の主な弾道ミサイル防衛関連部隊の配備状況（イメージ）

VOICE

海自 護衛艦「みょうこう」
1等海尉 松尾 匡哲

弾道ミサイルの脅威から日本を守るため、昼夜を問わず、緊張感を維持しながら警戒と訓練に当たっています。



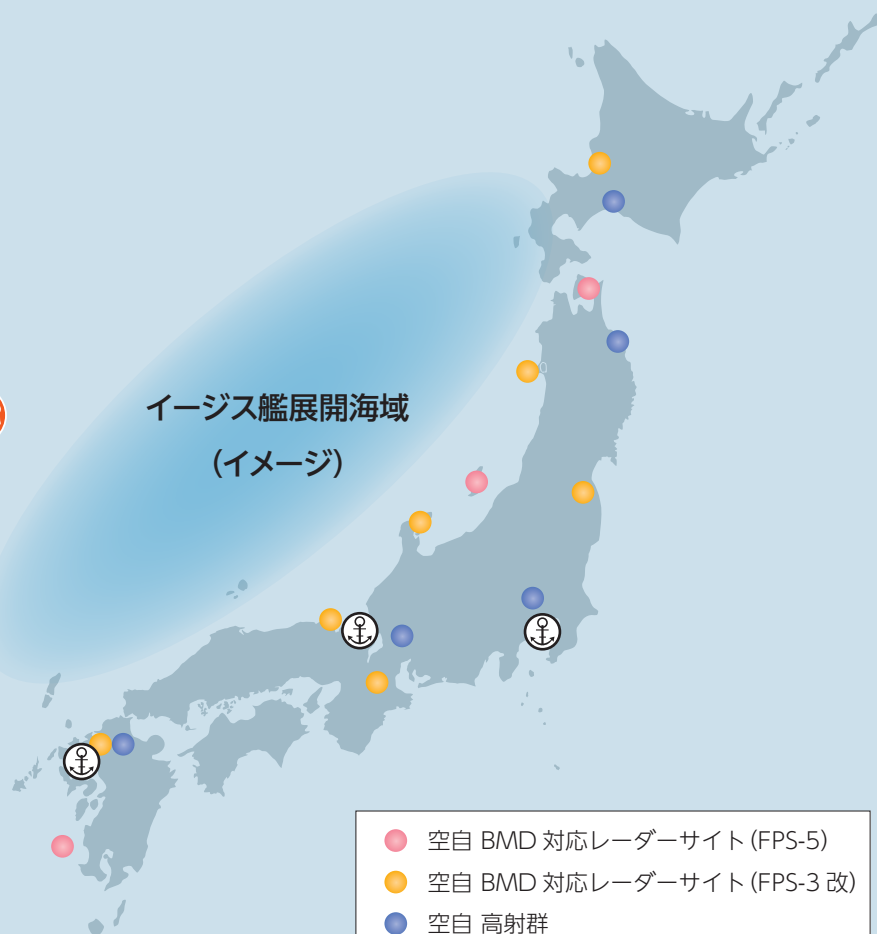
VOICE

海自 護衛艦「みょうこう」
2等海曹 岩宮 健一

弾道ミサイルを捉えるレーダーの整備に当たっています。常に最良の状態を維持できるよう全力を尽くしています。



イージス艦展開海域
(イメージ)



- 空自 BMD 対応レーダーサイト (FPS-5)
- 空自 BMD 対応レーダーサイト (FPS-3 改)
- 空自 高射群
- ⚓ 海自 イージス艦定係港

VOICE

空自 第42警戒群
3等空曹 松本 健吾

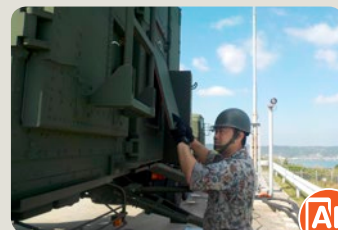
わが国に接近する外国の航空機のほか、弾道ミサイルを監視する目として、最前線で常時緊張感と誇りを持って勤務しています。



VOICE

空自 第5高射群
3等空曹 岩切 和也

「BMD最後の砦」であるPAC-3部隊の整備に携わり、国民を守る一員であるということを実感しています。



PAC-3機動展開訓練の全国的な実施

自衛隊は17(平成29)年6月から、順次、全国的にPAC-3機動展開訓練を実施しています(18(平成30)年6月末までに全国で20回実施)。

VOICE

空自 第2高射群
2等空尉 大森 朗徳(写真左端)

「いざ出陣 国の安心 PAC-3」
ミサイル防衛のゴールキーパーとして
任務及び訓練に邁進しています。



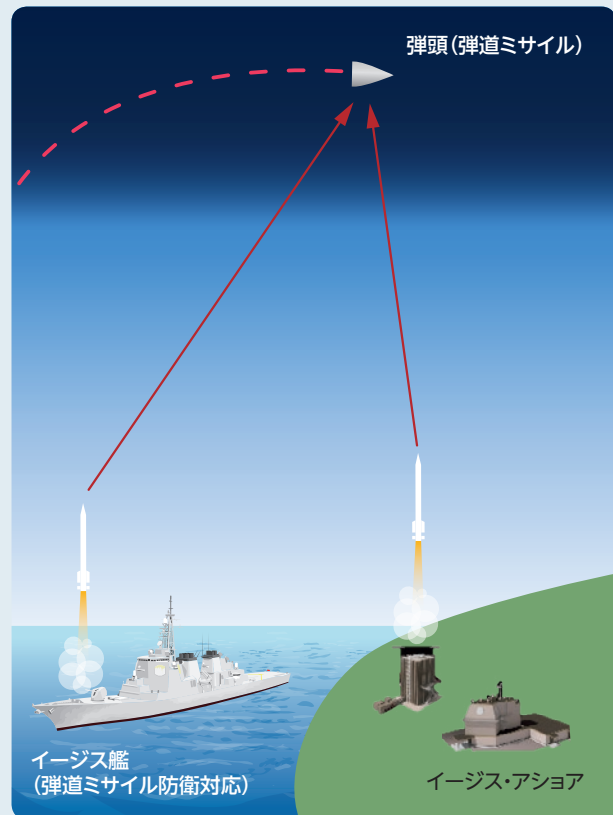
弾道ミサイル防衛の能力向上

国民の命と平和な暮らしを守ることは、政府の最も重要な責務です。北朝鮮に、わが国を射程に収める各種の弾道ミサイルが依然として多数存在するなど、弾道ミサイル防衛能力の向上は喫緊の課題である中、**イージス・アショア**を導入すれば、わが国を24時間・365日、切れ目なく守るための能力を抜本的に向上できることとなります。

弾道ミサイル防衛の「新たな盾」：イージス・アショア



米国ハワイ州イージス・アショア試験施設



イージス・アショアとは

イージス艦の船体以外の部分を、そのまま陸上に固定的に置いたような装備品で、大気圏外の宇宙空間(ミッドコース段階)を飛翔する弾道ミサイルを地上から迎撃するシステムです。

詳細については、本文Ⅲ部第1章第2節(実効的な抑止及び対処)を参照